

1. はじめに

広島県腫瘍登録事業は、昭和48年（1973年）4月1日から開始されました。全国では、本県と長崎県だけにおいて実施しておりますこの事業は、当初県下のがん対策に資するべく放射線影響研究所（当時の ABCC）や広島大学との協定の締結から始まり、今日まで44年にわたり登録事業として積み重ねてまいりました。

これはひとえに、各施設のご理解とご協力のおかげであり、平成29年（2017）年も54,573件の多数の腫瘍データをご提出いただきました。これにより、事業開始から平成29年（2017）末までの総登録受付件数は1,378,634件に達しました。本事業に尽力いただいた諸先生方にあらためて感謝申し上げます。

もとより、広島県医師会は、学術団体として今後とも腫瘍登録事業を継続し、この全国に類をみない貴重なデータをいかに活用し、広く県民のがん対策・がん診療の向上につなげていくことこそが責務であると考えております。

そのため、この腫瘍登録では、データ集計を基に、毎年報告書を発行しており、この度、広島県腫瘍登録報告書 No.42を作成しました。内容については、最初に「グラフで見る2014年のデータ」として平成26年（2014）における腫瘍組織登録の結果をまとめました。

次に、特定臓器解析では、「軟部腫瘍」の解析を行いました。比較的、良性の腫瘍が多くを占めている部位といえます。昨年度の「骨腫瘍」と同様に希少がんの範疇の解析となり、今後のがん対策に活用することも期待できるデータとなっております。

今後、さらに超高齢社会を迎えますが、放射線影響研究所や広島県とも連携しながら、腫瘍登録事業の成果を県民に着実に還元できるよう、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

引き続き本事業に対しまして、何卒ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年3月

一般社団法人広島県医師会会長
広島県腫瘍登録委員会委員長

平 松 恵 一